

津久見市の小児医療・小児保健の向上を目指して

# こどもの病気対策法⑧

## 頭部外傷編

津久見中央病院 小児科部長 宮原 弘明



1歳を過ぎたこどもの一番多い死亡原因は「事故」です。こどもは体に対して頭が大きく、バランスが取りにくいので、よく頭から転げてしまいます。強く頭を打ち付けてしまうと、頭蓋内出血(頭の中への出血)や、脳挫傷(脳の損傷)の危険があります。すぐに大きな声で泣いて、その後、おっぱいやミルク、おやつなどを与えて機嫌が直るなら一安心です。こどもの急性硬膜下血腫の約半数は高さ1.5メートル以下からの落下であり、低いところから落ちたといつて問題がないとは限りません。

意識がない、けいれんを起している、吐いている、出血が止まらない、打ったあとがへこんでいる、耳や鼻から血液や水が出る、などの症状があるときはすぐに病院に行きましょう。首を痛がる場合や、手足を動かさない場合は、頚椎(首の神経)を損傷している可能性がありますので、無理に動かさず救急隊の到着を待ってください。出血

しているところは清潔なタオルなどでしっかり押さえます。フローチャートを参考にし、注意すべき症状がなければ、落ち着いて病院に連れてきてください。受傷や症状の程度に応じて、レントゲンやCT(頭の中をみる画像検査)などを行います。症状が進行したり頭の中の出血が大きくなるときは脳神経外科で受診し、場合によっては血の塊を取り除く必要があります。診察で大きな問題がないことが分かって、2〜3日はお母さんの目の届く範囲で行動させましょう。

また、出血を助長する可能性があるため、受傷当日の入浴は避けましょう。少しずつ頭の中に出血して後になって症状が出てくる場合があります。しばらくの間は注意深く様子を観察する必要があります。

今回は頭部外傷がおきた時の対処法を示しましたが、最も大事なことは「未然に防ぐ」ことです。階段に柵をつける、台になるようなものをベランダに置かない、机の角を保護するなど、安心して過ごせる環境作りが心がけましょう。



### こどもの頭部外傷 フローチャート



現段階では、重篤な疾患の可能性は低い  
診察で大きな問題がないことがわかって、2〜3日はこどもの様子を注意深く観察し、気になる点があれば必ず受診しましょう。

